

2020年3月期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布用)

新型コロナウイルス感染対策により、記者クラブでの決算会見の開催は見合わせました。

2020年5月8日

株式会社 **クレスコ**

The background of the slide is a repeating pattern of blue and white waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a grid, with each wave consisting of three concentric semi-circles. The top and bottom portions of the slide are filled with this pattern, while the middle portion is a solid white rectangle containing the text.

① 決算のポイント

1.1. 売上高・利益 連結

[単位：百万円未満切捨]

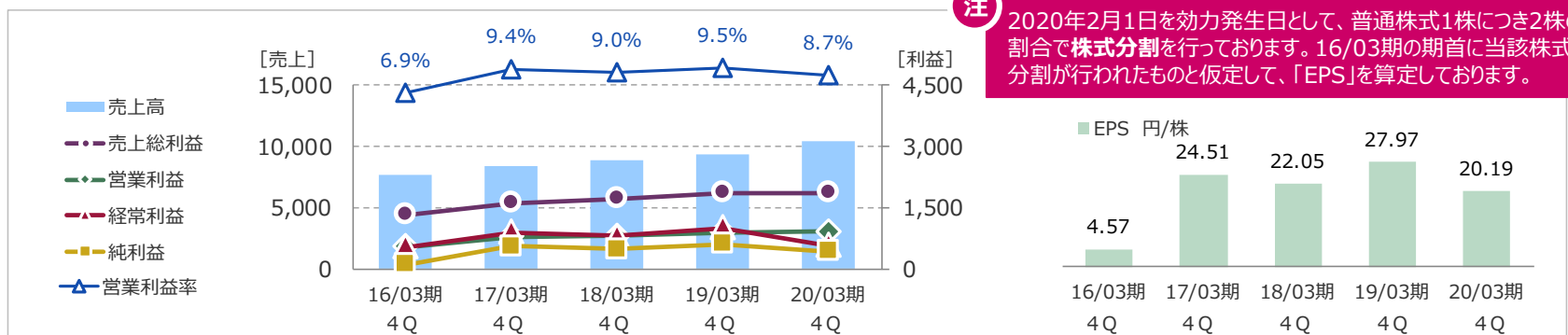
- 通期の経営環境は、「攻めのIT経営」を主眼としたデジタル変革がIT投資を下支え。
- 新型コロナウイルス禍の開発業務に与える影響は、2020年3月期は軽微。
- 通期業績は、**売上高・営業利益**ともに、**2桁の増収増益**。

経常利益・当期純利益は**増益**ではあるものの、**金融資産の評価損等の発生により低下**。

- 売上高 … 41億 7百万円の増収(前年同期比 11.7%増)。
- 営業利益 … 3億49百万円の増益(前年同期比 10.9%増)。 利益率は“9.1% → 9.0%”と、0.1%減少。
- 経常利益 … 54百万円の増益(前年同期比 1.5%増)。
- 当期純利益 … 1億36百万円の増益(前年同期比 5.9%増)。

通期	18/03期		19/03期		20/03期		前年 同期比	対通期 達成率	20/03期 19/5/9 予想		前年 同期比
	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	純利益	EPS 円/株			売上高	売上総利益	
売上高	33,328		35,230		39,337		111.7%	103.8%	37,880		107.5%
売上総利益	6,308 (18.9%)		6,673 (18.9%)		7,246 (18.4%)		108.6%				
営業利益	3,091 (9.3%)		3,207 (9.1%)		3,556 (9.0%)		110.9%	104.6%	3,400 (9.0%)		106.0%
経常利益	3,492 (10.5%)		3,658 (10.4%)		3,712 (9.4%)		101.5%	97.4%	3,813 (10.1%)		104.2%
純利益	2,202 (6.6%)		2,285 (6.5%)		2,421 (6.2%)		105.9%	100.2%	2,416 (6.4%)		105.7%
注	EPS 円/株	100.13	104.46		114.30				114.28		注

4 Q (1~3月)



【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

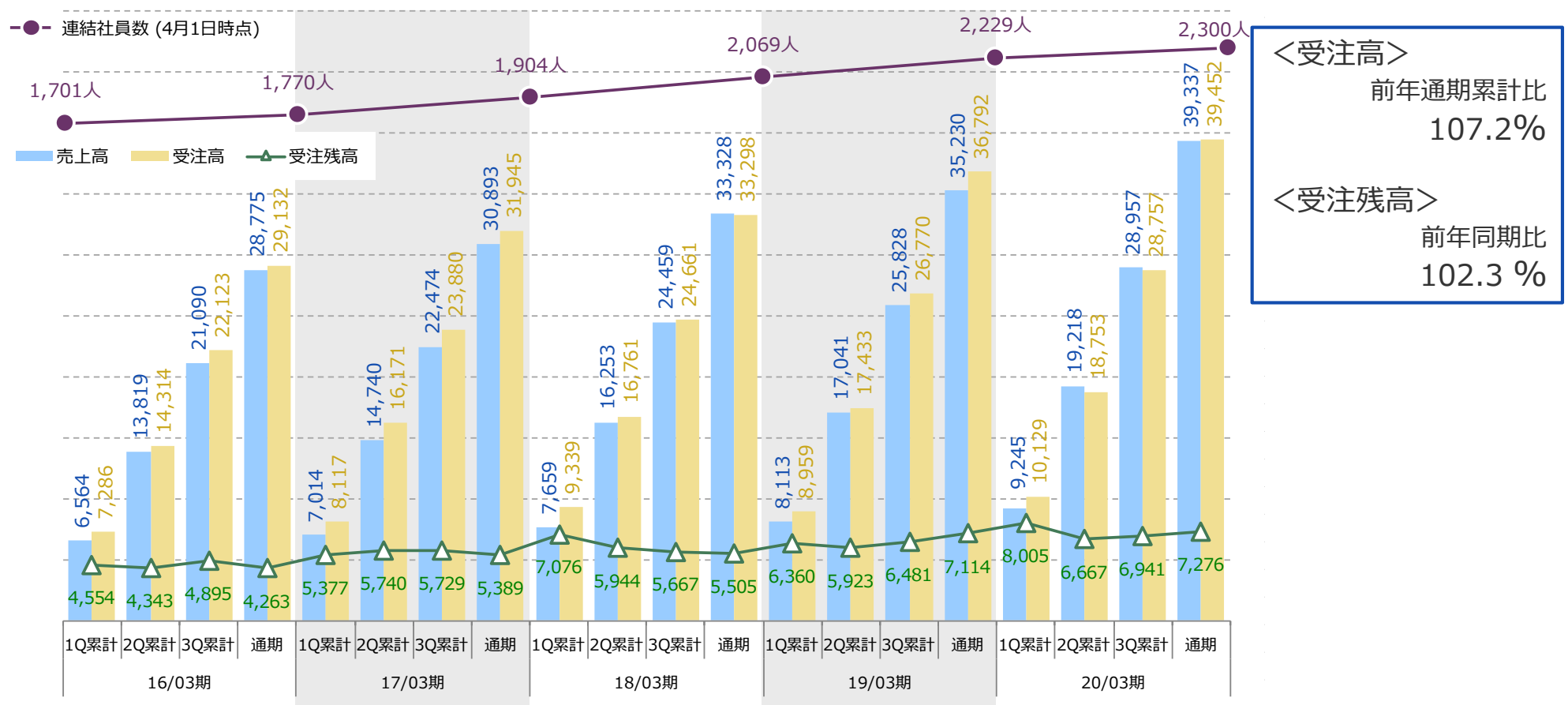
【注】 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

■ 顧客の引合いは、新型コロナウイルス禍の影響も軽微。攻めのIT投資やデジタル変革(DX)が下支え。

- ソフトウェア開発 … 「金融」関連は微増、「公共サービス」「流通・その他」の受注は順調。
- 組込み型ソフトウェア開発 … 「カーエレクトロニクス」関連は、顧客の濃淡はあるものの、全体の受注は順調。

■ サービス事業は、DX案件(特に、クラウド関連とAI関連)の受注が順調。



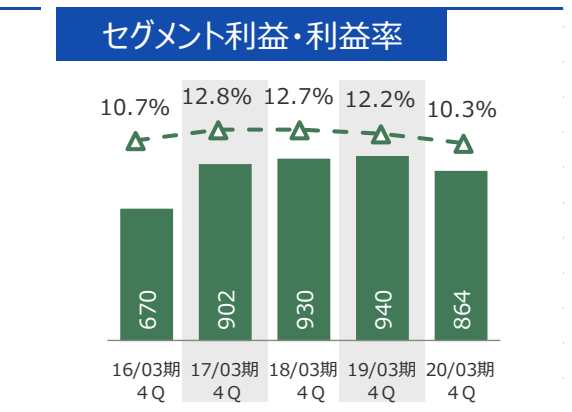
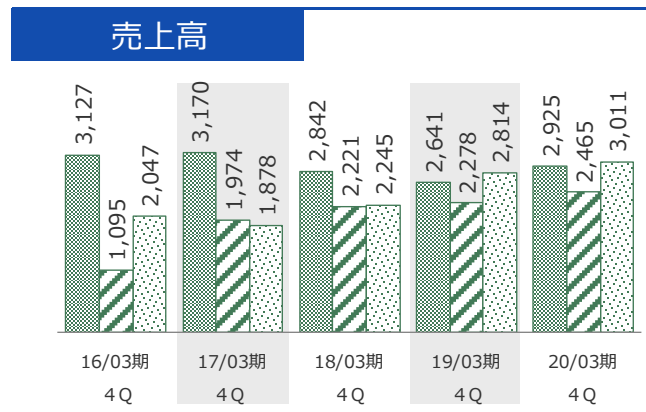
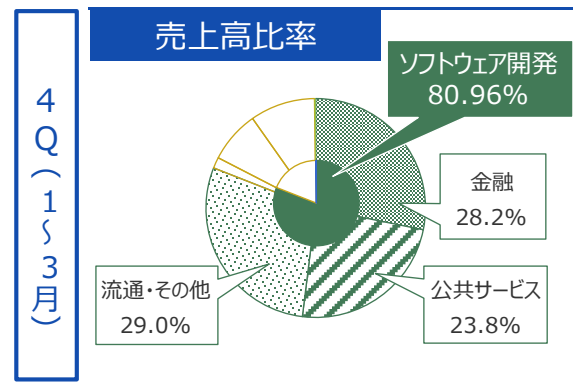
[単位：百万円未満切捨]

■ ソフトウェア開発

- ・ 営業および開発体制(オフショアを含む)の強化と、グループ連携の徹底により、売上高は**11.3%の2桁増収**。
- ・ 期中に大型の不採算案件が複数発生したが、リカバリーに注力し、セグメント利益は**7.6%の増益**。

- 金融 … 特に銀行関連の顧客の変化が大きく、1.3%増収に留まる。(前年同期比 1億40百万円の増収)
- 公共サービス … 既存大口顧客(人材、旅行、運輸)のIT投資拡大が牽引し、13.3%増収。(前年同期比 11億34百万円の増収)
- 流通・その他 … 連結子会社における受注が拡大し、20.0%増収。(前年同期比 19億86百万円の増収)

			18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比
通 期	ソ フ ト ウ エ ア	売上高				
		金融	11,868	10,438	10,579	101.3%
		公共サービス	7,793	8,545	9,679	113.3%
	流通・その他	8,062	9,914	11,900	120.0%	
	セグメント利益(率)	3,431 (12.4%)	3,254 (11.3%)	3,502 (10.9%)	107.6%	



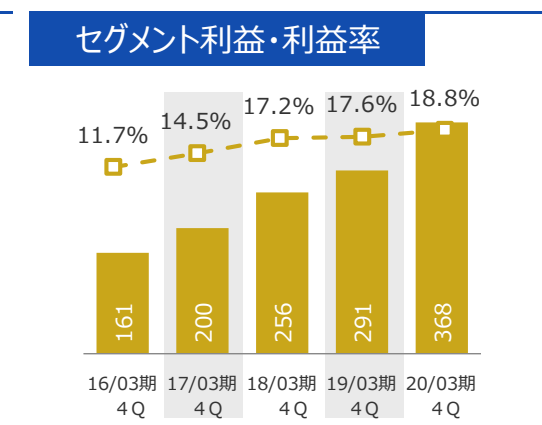
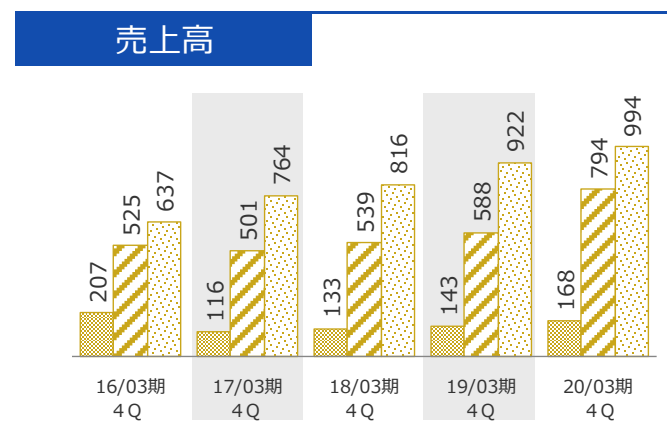
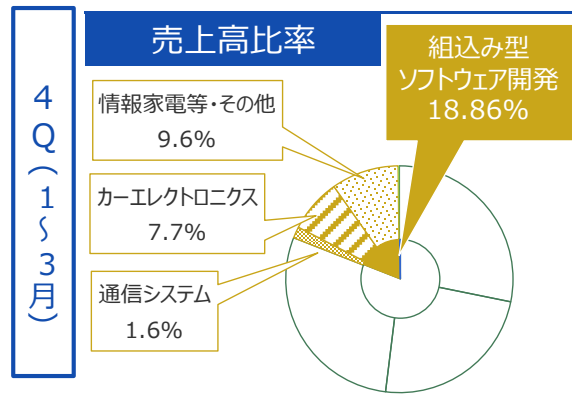
[単位：百万円未満切捨]

■ 組込み型ソフトウェア開発

- ・ 主要顧客からの継続的な増員要請や、基本契約の見直し(包括契約の締結)の他、生産性改善の取組み、開発体制の強化が奏功し、売上高は**13.5%の2桁増収**、セグメント利益も**16.9%の2桁増益**。

- 通信システム … スマートフォン関連は微増。(前年同期比 31百万円の増収)
- カーエレクトロニクス … 主力のインフォテイメント系が拡大し、センサー系の開発も順調。(前年同期比 5億87百万円の増収)
- 情報家電等・その他 … デジタル情報家電が順調。(前年同期比 2億28百万円の増収)

		18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比	
通 期	組 込 み 型	通信システム	510	526	558	106.1%
		カーエレクトロニクス	2,041	2,390	2,977	124.6%
		情報家電等・その他	2,906	3,368	3,597	106.8%
	売上高	5,458	6,285	7,132	113.5%	
	セグメント利益(率)	905 (16.6%)	1,146 (18.2%)	1,339 (18.8%)	116.9%	





② 2021年3月期の見通し・方針

新型コロナウイルス禍の影響は、業態や商材により差が大きい。
フローの受注の割合が高い受託開発型のSIerは、苦戦。

- 2020年度のスタートから、好調だった景況感が一変。
 - 2020年3月の日銀短観 [2020年4月1日発表]
業況判断指数(DI)が、新型コロナウイルス禍の影響を受け、大企業製造業、非製造業ともに悪化し、先行き不透明感が一段と増す。
 - IDC Japanの国内ICT市場予測 [2020年4月3日発表]
支出額ベースで、前年比4.5%減の28兆2,155億円と予測。
※この予測は、2020年6月末前後で、世界と国内において新型コロナウイルスの感染が抑制され、その後、企業の投資が活性化する、という前提に基づく。
 - 政府による4月の月例経済報告 [2020年4月23日発表]
「新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある」と、リーマン・ショック後、11年ぶりに「悪化」に言及。
- 実態経済の悪化を鑑みると、**短期的(特に上半期)には、IT投資が減速することは避けられない。**
- 情報サービス産業の中で、新型コロナウイルス禍にあっても成長する企業は、サブスクリプション型ビジネス中心のプラットフォームやネットワークサービスなどの提供企業であり、**フロー受注の割合が高い受託開発型のSIerは苦戦**と思われる。
- クラウド活用とテレワーク導入が進展し、**アフターコロナを踏まえた情報サービス産業自体の変革が加速。**

1. クレスコグループの新型コロナウイルスへの対応

- 2月27日、「新型コロナウイルスに関する当社の対応について」を公表。

【基本対応方針】

- (1) 従業員等およびその家族の生命の安全・健康を確保する。
- (2) 事業に与える被害の最小化を図る。
- (3) お客様・取引先・株主等に悪影響を及ぼさない。
- (4) 地域経済の早期安定化へ貢献する。
- (5) 各種対応の際は、常に人道面で配慮する。

- 4月6日、クレスコ本社に『コロナ緊急対策本部』を設置。
- 4月7日の緊急事態宣言に則り、4月8日から出勤率を2割以下とすべく、**原則として全社テレワークに移行**。
- 5月8日時点、**クレスコグループ社員の感染者はゼロ**。
- 政府や自治体の要請に準じた施策を徹底。

- ・ 原則として、社員・ビジネスパートナーを含め、在宅勤務を指示。
- ・ 当社主催の集合形式のイベントは、中止/延期/オンライン開催。
- ・ 会議は、原則としてオンライン実施。
- ・ 業務上の外出制限として、国内出張および海外への渡航を原則として禁止。
- ・ マスク着用、咳エチケット、手洗い・うがい、アルコール消毒液利用の徹底。希望者へのマスク配布。
- ・ 37.5度以上の発熱がある場合は出勤停止、濃厚接触者に該当する場合は14日間の就業禁止。
- ・ 同居者が感染の疑いがある場合は、出勤停止。

2. 新型コロナウイルス禍が、クレスコグループの業績見通しに及ぼす影響

■ 当社企業グループの業種特性による影響

- ・ 当該年度に発生する案件(フロービジネス)が30~40%。保守・サービス等(ストックビジネス)が60~70%。
- ・ フロービジネス(新規顧客)が厳しく、場合により、ストックビジネス(既存顧客)も剥落する顧客が増加する。

■ IT投資計画を見直さざるを得ない既存顧客が多く、緊急事態宣言後、動きが顕著になっている。 引合い案件の内、5月以降の受注確度が低下傾向。新規顧客開拓に必須の商談機会の確保が難しい。

■ 既存プロジェクトおよび新規プロジェクトへの影響(中止/中断/延期 など)は、これから出てくると予測。

■ テレワーク体制による業務の定常化を目指しているが、課題も多く、稼働率・生産性の低下は否めない。

■ 感染状況によっては、事業所の一時閉鎖や濃厚接触者の待機が発生し、稼働率に大きく影響する。

■ 主な事業セグメントに対する影響

【ソフトウェア開発事業】

・「金融」分野

株価の暴落や為替相場の大幅な変動に伴う世界規模の金融不安が、影響を与える見通し。

・「公共サービス」分野、「流通・その他」分野

足元業績の急激な悪化や先行きの不透明感が影響を与える見通し。

【組込型ソフトウェア開発事業】

製品分野(「通信システム」「カーエレクトロニクス」「情報家電・その他」)によって影響の大きさは異なるものの、

急激な需要減少や製品開発サイクルの見直し、為替相場の大幅な変動などが、IT投資に影響を与える見通し。

3. 事業リスクおよび事業機会に関する認識

- 新型コロナウイルス禍は収束するまでの間、長期間に渡って、クレスコグループのみならず、内外の経済全般およびお客様の企業活動に大きなダメージを与える。そのため、2020年度は、**複数の事業等リスクが、同時あるいは時間差で発生し、**クレスコグループの経営成績等の状況に重要な影響を与える可能性がある。

- ・ 経営環境の変化に関するリスク
 - ・ 特定の取引先への依存度に関するリスク
 - ・ 協力会社(ビジネスパートナー)との連携体制に関するリスク
 - ・ 就業および健康に関するリスク
 - ・ 感染症に関するリスク
- など。

- **短期視点では、積極的な事業展開が非常に厳しい局面だが、**価値創造を目的とする「デジタル変革」の潮流自体は、構造的には大きく変化しておらず、**中長期視点では、拡大基調が継続する**ものと認識している。
- 新型コロナウイルス禍を機に、BCP(Business Continuity Plan : 事業継続計画)対策を含め、改めて見直されるクラウド環境の整備や、テレワーク・在宅勤務制度の導入、AIやRPAを活用した省人化・自動化対応等、顧客の要望は増加傾向にあり、先端技術を含む幅広い事業領域を有するクレスコグループにとって、**新たな事業機会となる**と考えている。
- 長期化が避けられない新型コロナウイルス禍の中、「**ピンチのときこそ、チャンスは到来する**」と前向きに捉え、アフターコロナを視野に入れつつ、事業ポートフォリオの最適化と柔軟な組織経営に努めると共に、市場ニーズに適時・的確に応えることができる技術力の保持と、革新的な新規ビジネスの組成に取り組む。

4. 2021年3月期の連結業績予想について

- 新型コロナウイルス禍の当社企業グループ業績への影響は **『精緻に把握することが困難』**

- ・ 顧客のIT投資の抑制(受注減少、プロジェクトの中止、中断、延期 等)
- ・ 労働環境の変化(テレワークへの移行、時差通勤 等)
- ・ 関係者の罹患対応

など

- 現時点で **入手可能かつ合理的な情報による判断**および **以下の仮定に基づき**、業績予想を作成。

- ① 新型コロナウイルス禍は、第2四半期後半から収束に向い、下期には受注も徐々に好転する。
- ② 上期は、主要顧客に著しい悪化影響が生じ、計画見直しによる受注減が発生する。
- ③ 2020年4月1日付で「株式会社エニシアス」を連結子会社としており、業績の底上げを期待。
- ④ 下期の回復基調は、上期の落ち込みをカバーするまでには至らず、**通期業績は前年度並みに着地。**

- コスト面は、新型コロナウイルス禍の現状に鑑み、当初計画を見直し。**不要不急の経費は削減。**

[単位：百万円未満切捨]

2 Q 累 計	20/03期						21/03期	
	19/5/9 予想	前年 同期比	実績		前年 同期比	達成率	20/5/8 予想	前年 同期比
	売上高	18,460	108.3%	19,218		112.8%	104.1%	19,000
売上総利益			3,586 (18.7%)		116.9%			
営業利益	1,500 (8.1%)	106.7%	1,726 (9.0%)		122.8%	115.1%	1,450 (7.6%)	84.0%
経常利益	1,704 (9.2%)	99.0%	1,896 (9.9%)		110.2%	111.3%	1,550 (8.2%)	81.7%
純利益	1,117 (6.1%)	103.8%	1,139 (5.9%)		105.8%	102.0%	1,040 (5.5%)	91.3%
EPS 円/株	102.10		52.74				49.55	

通 期	20/03期						21/03期	
	19/5/9 予想	前年 同期比	実績		前年 同期比	達成率	20/5/8 予想	前年 同期比
	売上高	37,880	107.5%	39,337		111.7%	103.8%	40,000
売上総利益			7,246 (18.4%)		108.6%			
営業利益	3,400 (9.0%)	106.0%	3,556 (9.0%)		110.9%	104.6%	3,400 (8.5%)	95.6%
経常利益	3,813 (10.1%)	104.2%	3,712 (9.4%)		101.5%	97.4%	3,600 (9.0%)	97.0%
純利益	2,416 (6.4%)	105.7%	2,421 (6.2%)		105.9%	100.2%	2,450 (6.1%)	101.2%
注 EPS 円/株	114.28		114.30				116.72	注

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

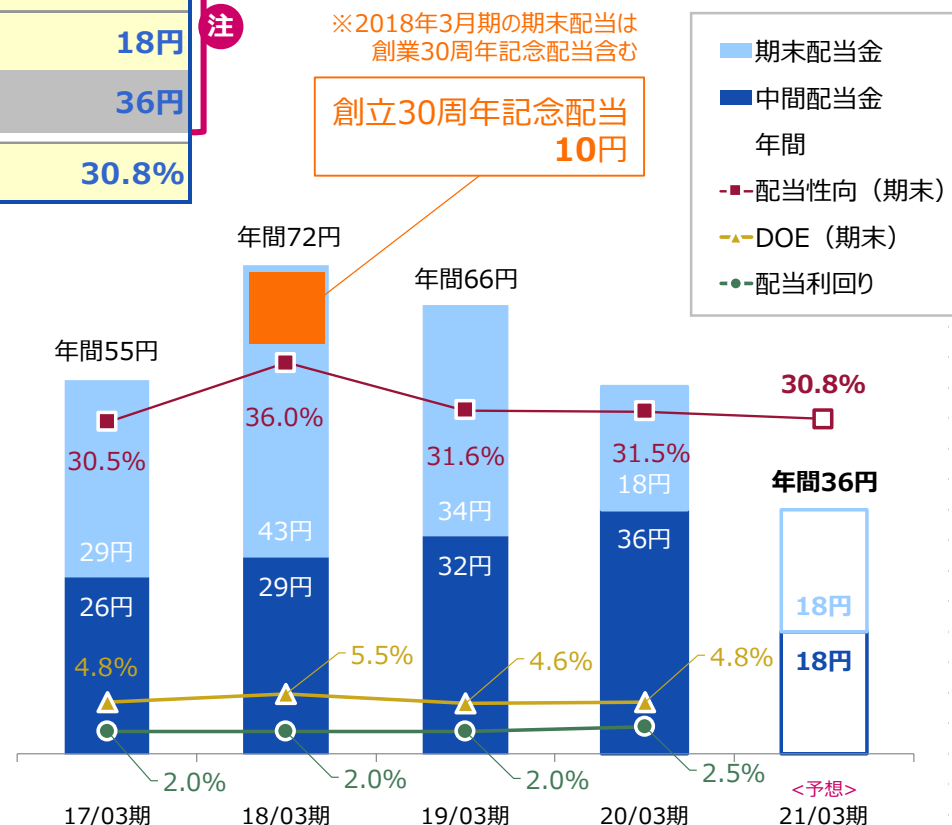
注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で**株式分割**を行っております。19/03期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、「EPS」を算定しております。

	18/03期 実績	19/03期 実績	20/03期 実績	21/03期 20/5/8 予想
中間	29円	32円	36円	18円
期末	※ 43円	34円	18円	18円
年間	72円	66円	-	36円
配当性向	36.0%	31.6%	31.5%	30.8%
配当利回り	2.0%	2.0%	2.5%	
DOE	5.5%	4.6%	4.8%	
配当金の総額	781百万円	722百万円	750百万円	

[配当金の総額：百万円未満切捨]

株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- ▶ 特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、原則、**連結経常利益**をもとに、特別損益を零とした場合に算出される**親会社に帰属する当期純利益**の30%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

- 16/03期中間～20/3期中間は分割前の実際の配当金の額を記載しております。
- 20/03期予想の合計は、株式分割の実施により単純計算ができないため記載しておりません。

経営方針

- 「CRESCO Ambition 2020」に沿った経営
- 新規顧客の獲得および
事業ポートフォリオの最適化による受注の確保
- 先端技術を活用した
高付加価値ビジネスの創出による利益の拡大
- 働き方改革への継続的な挑戦による
生産性および社員満足度の向上
- アライアンスの推進による成長力の加速

対処すべき課題

1. 新規ビジネスの組成と
新技術の研究・開発
2. 新規顧客の獲得および
お客様とのレーションシップの強化
3. 鉄板品質の提供
4. 生産性の追求
5. 開発に従事する人材の確保
6. 人材の採用と育成
7. 働き方改革の推進
8. 健康経営の推進
9. ダイバーシティへの取り組み
10. M&A・アライアンスの推進と
グループ企業に対する管理の強化
11. コーポレート・ガバナンスの推進
12. 事業ポートフォリオの最適化と
柔軟な組織経営

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation
～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝くクレスコ

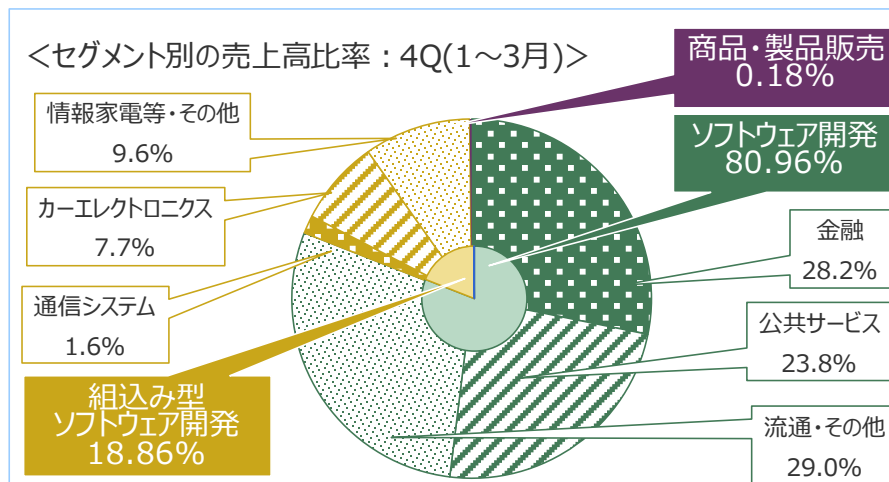
The image features a repeating pattern of blue and white stylized waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a grid-like fashion, creating a rhythmic, textured background. The central area is a plain white rectangle containing the text.

【ご参考】

	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコイー・ソリューション 【※3】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アイオス 【※6】【※10】【※12】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ九州 【※13】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ上海 【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
シーフリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エス・アイ・サービス 【※1】【※3】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス 【※2】【※8】【※9】	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エヌシステム 【※4】	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ネクサス 【※7】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アルス 【※11】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●
クレスコベトナム 【※14】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	●	●
子会社総数	9	9	10	10	9	10	10	10	10	10	9	10	10	10	11	11	10	11	11	11

- 【※1】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化
- 【※2】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化
- 【※3】 2016年4月1日付で「クレスコイー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合
- 【※4】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化
- 【※5】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了
- 【※6】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化 (当社の孫会社)
- 【※7】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化
- 【※8】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

- 【※9】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合
- 【※10】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合
- 【※11】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化
- 【※12】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化 (当社の孫会社)
- 【※13】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合
- 【※14】 2019年9月17日付で「CRESCO VIETNAM CO., LTD.(クレスコベトナム)」を設立 (営業開始は2019年10月1日から)



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR担当
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058